

1. 活動テーマ

【テーマ】

○オシロイバナで作った色水を凍らせて、画用紙に色をつける。

【テーマの設定理由】

○夏ならではの氷遊びから、子どもたちの興味を持った色水遊びを発展させ、氷の解ける様子などを気づきながら画用紙に色をつけていく。

2. 活動スケジュール

○導入として氷に触れるところから始め、前日に作ったオシロイバナの色水がどのように凍ったかなどを見せながら、自由に氷を転がして、画用紙に色を付ける。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境設定

・白の画用紙・バットやトレイ・色水の氷・テーブル

4. 探求活動の実践

【活動内容】

○氷に触れて氷遊びをしてから、色水を凍らせた氷で画用紙に色を付けていく。

【活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり】

前日にオシロイバナを使って色水遊びをし、その色水を凍らせたらどんなようすになるか、子ども達と想像をふらませながら、色水を作った。ビニル袋に水と花を入れて揉むが、ただ揉むだけだと色水にならないので、どうしたら色が出るのか子どもたちと考え、「お花をこすると水がピンクになった」と子ども達から声が上がリ、ピンクと黄色の色水を作ることができた。これを凍らせてみようかと提案すると「どんなふうになるか楽しみ」と友達同士で話し合う姿が見られた。

当日、製氷皿を子ども達と開けると、色水と水が分離してしまっていて、子ども達も「あれ？ピンクはどこ？黄色じゃないね」と不思議そうにしていた。戸外で氷に触れることで、「冷たいね」「もっと氷頂戴！」と触れることを楽しんでた。画用紙を用意し、色のついた氷や解け出たオシロイバナを指でこすり合わせると、色がつくことを発見し、「紙がピンクになったよ」と色付けを楽しんでいた。



5. 振り返り

【振り返りによって得た先生の気づき】

前回の氷遊びから、オシロイバナで色水を作り、それを凍らせてみた。色水の部分がぎゅっと凝縮して凍ってしまい、何色を凍らせたのか分からなくなってしまう。オシロイバナでの色水を凍らせたらどんな様子になるのか、等の事前準備が足りなかったが、失敗ではなく、気づきとして次回につなげていきたい。事前準備をしっかりと行い、次回は食紅や絵の具で作った色水を凍らせたらどんな様子になるのかなども試していきたい。保育士からの声掛けがなくても、子ども達のほう

から、発見や気づきを聞き出せるように今回得た経験を生かして保育をしていきたい。